

From The Alumni Association

同窓会だより

福岡歯科大学同窓会主催／学術講演会を開催



講演者(左から松永氏、城戸氏、坂上氏)

お招きして行いました。開会は、宮口同窓会会長のご挨拶より始まり、城戸寛史准教授が「インプラント治療に必要な基礎知識とGuided Surgeryの薦め」をテーマに、一般臨床に広く行われているインプラント治療において必要な基本的な知識やインプラント埋入時に生じる合併症などの症例を解剖学的観点より解り易く解説していただきました。松永興昌講師には、「審美修復における酸化ジルコニアを用いた臨床と問題点」というテーマで、現在最も注目されている酸化ジルコニアを用いた修復の効果と臨床的問題点を臨床データと技工データを基にご講演していただきました。坂上竜資教授には、「歯周組織再生における咬合性外傷のコントロールの重要性」というテーマで、基礎的研究を中心としたデータを臨床と関連付けて解説していただきました。最後に3人の先生方に登壇して頂き質疑応答において活発な意見交換が行われ、大変有意義な講演会となりました。

今回の講演会は、これまでの講演会とは趣向を変え、外部からの講演者ではなく、福歯大現職の先生方をお願いしました。これにより福歯大の先生方を広く一般に知っていただくとともに、同窓会会員にも通常聞きにくいような質問が気軽にできるようなアットホームな雰囲気での講演会となりました。

学術理事 鬼塚 得也(14期)

去る2月8日 福岡歯科大学同窓会主催第22回学術講演会が福岡県歯科医師会館において開催されました。

本講演会は、「エビデンスに基づいたこれからの歯科治療」をメインテーマに福岡歯科大学口腔インプラント学分野・城戸寛史准教授、口腔顔面美容医療センター・松永興昌講師、歯周病学分野・坂上竜資教授の3人の先生方



質疑応答

同窓会通信 「会員を結ぶ絆とは？」

同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。

現在私たち同窓会役員一同は、来る7月25日(土)に行われる「福岡歯科大学同窓会30周年記念行事」に向けて鋭意準備を行っているところです。当日は、皆様にお会いできることを楽しみにお待ちしております。

さて先般私は、宮口会長、勝俣副会長、武井専務理事、疋田常務理事とともに、九州大学歯学部、九州歯科大学、長崎大学歯学部および福岡歯科大学の同窓会が集まって行われる「九州4大学連絡協議会」に出席させていただく機会を与えていただきました。

協議会は、「同窓会のあり方、将来展望」をテーマとして行われました。当日出席されたいずれの大学の役員お一人お一人が、形は異なるものの、いかに皆様へ還元できるような活動を行っていくのかを真摯に考えてい

らっしゃいました。

その中の1つに、「会員を結ぶ絆とは？」という質疑テーマがありました。皆様は、このことについてどのようにお考えをお持ちですか?きっと、百人百様のお答えが返ってくると思います。

今回の会議では、「卒業生としてのプライド」、「先輩後輩意識」、「運命共同体」、「母校愛」、「帰属意識」、「同窓意識」などのキーワードが挙げられておりました。これらの言葉は、表現は異なるものの、根底に流れるものは1つのような気がします。

私たちの同窓会も、この「絆」を大事に出来る会でありたいと心より思っております。

広報、企画・情報常務理事 小柳 進祐(12期)

卒業生トーク 「10年目の節目」 長島 義之(21期)



今年21期生の卒後10周年の同窓会を開催することになりました。21期生の皆さんは心づもりをお願い致します。

皆さんは10年後の自分を想像して夢に向かっていますか?

私は卒業時に10年後はどこで何をやっているのだろうとおぼろげな想像しかできませんでした。

父には実家に帰ってくるのは10年先くらいかなと冗談半分で言っていたのですが、期せずしてちょうど節目の10年後に実家に引き上げることになりました。しかしその内容は想像とはかなりかけ離れた10年間でした…。

卒業時口腔インプラント科が開設され、卒後研修医から携われたことは自分の歯科医師としての大きな財産となりました。特に大学院時代に必死で文献をあさり実験を重ねたこと、数回の学会を開催し運営を行ったこと、ここ数年アメリカインプラント学会で学会発表ができたことなど、大学にしなければできない体験でした。しかし一番貴重なものは患者

さん一人一人でした。何も出来ない自分に最も多くのことを教えて下さいました。先日初めてインプラントを埋入した患者さんにお別れのご挨拶ができ、これでやっと卒業だと感慨深い気持ちになりました。

これからの10年間は、歯科医院経営やスタッフ教育など全く異なった問題で苦勞することでしょうが、10年後に後悔のないものにしたいと思います。

最後になりましたが、自分の家族以上に多くの時間をともに過ごし、多くの思い出を残してくれた口腔インプラント科の皆さん、本当にありがとうございました。

また本稿をお借りしてお世話になりました福岡歯科大学関係各位の皆様方に感謝申し上げます。



口腔インプラント科の皆さん